

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和 6 年 6 月 1 日

事業所名 子どもリハビリセンターIllumination

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		定員に対し、事業所のスペースが広く子ども達が伸び伸び過ごしている。	
	②	職員の配置数は適切である	○		適切。変更がある場合は、随時熊本市へ報告を行っている。	言語聴覚士との連携も視野に入れて検討していきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ワンフロアで全てバリアフリーであり、トイレも手すりなど完備している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日清掃を行っており、子ども達が使用する備品やベッドなどは一人ひとり使用後にアルコール消毒を行っている。	感染対策に向けて職員の感染対策への意識付けや健康管理も行っていく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		終礼や月末会議で問題点が生じた場合、情報共有を行い、PDCAサイクルにて問題解決に取り組んでいる。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表だけでなく、公式ラインを立ち上げ、気軽に相談・連絡できる体制を構築している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		今回、立ち上げて最初の自己評価であり、評価実施後はホームページに掲載予定。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	今後実施検討	状況に応じて評価方法の検討を全体会議等を通して検討していきます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月の事業所内研修会の実施と、事業所外研修会への参加を各スタッフがやっている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		各専門職の視点から、ICF視点で会議を行い、情報共有を行ったうえで計画書を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		世界的な基準に合わせるために、weeFIMを使用したアセスメントを実施。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援管理責任者を中心に全てのスタッフが発達支援ガイドラインを理解し、その内容に基づき支援内容を検討し項目に沿って設定している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童発達支援管理責任者を中心に支援計画を策定し、支援計画に基づき目標を立てて取り組んでいる。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動プログラムを神経科学や発達科学の視点から検討し立案している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		各専門職の視点から必要な支援を立案し検討している。	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別支援と小集団支援、集団支援に分けて発達状況や身体状況に合わせて作成している。	
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎回朝礼を行い、昨日の申し送りと利用時の状態把握と役割分担の確認を行っている。	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎回終礼を行い、利用時の身体・精神状態の報告を行っている。また、休みのスタッフに向けに申し送りを作成している。	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録を毎日行い、管理者への確認にて支援の検証と改善に努めている。	
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		全スタッフで会議を開催しその時の状態や発達に合わせた計画の立案と見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に管理者もしくは児童発達支援管理責任者が参加し、会議参加前に情報共有を行っている。	
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		利用児の関係構築には密な連携を図り、情報共有を行っている。	
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		熊本大学をはじめ、様々な医療機関に連携を図れるように挨拶に伺い、必要に応じて報告連絡相談等の連携を図っている。	
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		指示書だけでなく、必要に応じて対応なども相談している。	
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園を利用している利用児の支援方法や日常生活状況を共有するために実際に保育園へおもむき連携を図っている。	
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		小学校の先生方と介助方法や身体機能や発達状況の情報共有を行っている。	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		東区新設通所事業所巡回などにて、助言を受けている。	
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	現在、障がいのない児童との活動の機会が少ない為検討を行う。	全体会議を通して交流の時期や場所等の検討を行っていきます。
	㉙ (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		積極的に参加し、他事業所との連携を図っている。	
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		公式ライン、利用後の活動記録、SNSを通じて保護者との情報共有を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		公式ラインで対応を常に相談を受けつつ、事業所へ来所して頂き直接支援を行っている。	
	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		初回契約時に説明を行い書面にて同意を得ている。	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		初回契約時に説明を行い書面にて同意を得ている。	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		公式ラインにて常時相談を受け入れ対応しつつ、保護者間のコミュニティを開催している。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者のコミュニティを開催し、保護者同士の情報共有や繋がりができるように支援している。	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		公式ラインやSNSから相談・申入れを受け、状況に合わせて見学にて直接対応を行っている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページやSNSにて活動概要や研修、行事等について詳細に発信している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報保護を基本とし、状況に合わせて書類に同意を得ている。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		障がいの理解の為に勉強会を開催し、障がいや生活状況を理解したうえで対応している。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域住民に向けた行事を行っていない為、今後検討していく。	地域での取り組みなどの情報収集も行いながら活動内容を検討行っていきます。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		非常時を含めた業務に関するマニュアルを全て作成し、訓練を行い理解したうえで対応している。保護者へはホームページやSNSを通じて報告を行っている。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		マニュアルに沿って緊急時訓練を実施。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		業務記録だけでなく、緊急時や車両移動時にも確認できるように書類を作成し対応している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーに関して、医師の指示書や保護者からの情報共有に基づき対応している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成し、終礼と月末会議にて情報共有を行い、その対策を検討している。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を立ち上げ、マニュアルに沿って活動している。月末会議にて報告および研修会を定期的に実施している。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束員会を立ち上げて、マニュアルに沿って活動している。保護者にも書面にて説明を行い同意を得ている。必要な場合は計画書へ記載し再度説明を行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。